

のど輪で月山に勝って4勝目をあげた。「佐賀は強い佐賀に戻ったね」と鹿賀乃戸親方。どうやら膝の調子も良くなったようで、中日以降の相撲が楽しみになってきた。

五日目までの土俵を見る限り、今場所の優勝争いは大関千代鈴を中心に展開されると思われる。千代鈴は5日間取って負けなしという以上に圧倒的な強さを見せており、横綱昇進に向けて死闘なれどといったところだ。

これに大関大神楽、関脇佐賀ノ海、平幕の綱乃花あたりがどう絡んで優勝争いが展開されるかが注目だろう。まだ、折返し地点であり、残り6日間に波乱があるのか、あるいは前半戦の星の流れで行くのか、楽しみながら後半戦である。

### 十両は桃洲、駒波が全勝

十両は四日目と五日目が行われ、三日目まで勝ちっぱなしだった桃洲と駒波が揃って全勝を守った。1敗で葵盛、西勢ノ里、蛮国、御嶽灘の4人が追う展開。

先場所から好調を維持している桃洲は四日目に西の富士と対戦。左を差しての力強い相撲で寄り切り、五日目に同部屋の渡海戦でも立ち合いから攻め込んでの引き落としで5連勝を飾った。今場所はまだ得意の右からの攻めは見られないが、8勝以上の星を積み上げれば来場所は幕内を狙える位置まで番付を上げることが出来るだろう。何なら全勝優勝も狙って欲しいところだ。

かたや駒波は四日目と五日目は茅ヶ崎と一番。相手の茅ヶ崎も二日目に黒星は喫したものの、四日目に注目力士の徳ノ富士を破って勢いに乗ってやるだけに茅ヶ崎にやや分があると思われたが、そこは駒波が相手のお株を奪う押し倒しを決めて駒波も5連勝とした。



茅ヶ崎●(押し倒し)○駒波

このところ常に番付上位に居ながら中々両の壁を突破出来ずにいる葵盛は、剣将と吉備の里を破って4勝目。今場所こそは幕内昇進のチャンスと言えよう。そろそろ昇進しないかと後援会にそっぽを向かれそうかもしれない。

こちら密かに入幕を狙う西勢ノ里が左差しから相手に相撲を取らせない取り口で連勝し4勝1敗。ほかの春日根勢が黒星先行の中ただ一人根親方も西勢ノ里の結果に安堵していることだろう。

蛮国が五日目に徳ノ富士に互角に渡り合い押し倒して勝ち4勝目を上げ波に乗ってきた。先場所は期待されながら負けに終わっただけに、今場所は期するものがあるに違いない。この調子なら優勝争いにも十分絡んで来そう。



蛮国○(押し倒し)●徳富士

新十両の御嶽灘が期待以上の星を上げていく。初日こそ黒星発進となったが、二日目から白星を重ねて五日目は初戸の右攻めを封じて圧倒する相撲を見せた。今場所は勝ち越しが目標と見られていたが、まずはその圏内に入ってきた。

対照的に親方の期待に応えられていないのが徳ノ富士。場所前は優勝候補とも目されていたが、ここまででは自分の相撲が取り切れていない。終盤にかけて桐壺親方を安心させる相撲を見せられるのか、まさか負け越すなんてことはないと思うが、こればかりは取ってみないとわからない。まずは早めの白星が何よりの薬だろう。(勝間田)

### 幕下は桐壺勢が上位台頭

幕下もようやく初日の開催を迎えた。今場所は上位に桐壺勢の5人が台頭し、先場所優勝の磯若や東西筆頭の島内、菊地原あたりとの優勝争いが展開されて行きそう。

その桐壺勢の中で初日を上げたのは椿富士。播磨富士、徳ノ虎の3人。椿富士と播磨富士はともに左差しからの攻めで勝利し、徳ノ虎は元幕内で同門の剣竜をはたき込みで破り白星発進。敗れた剣竜は幕下でも本来の相撲が取れず二日目以降も苦戦を強いられそう。

先場所星1つの差で十両昇進を逃した鶴ノ里は、花吹雪相手に左を差して難なく寄り切って今場所こそはと気合も入るところだろう。

先場所優勝の磯若は西五枚目に上がり連続優勝で一気に十両昇進といきたいところ。虎と麒麟との対戦となり終始攻め込まれる形となったが、何とか凌ぎきったが、何とか凌ぎきったが見せて幸しいスタートを切った。

他に優勝争いに加わりそうなおとろでは、自力のある西旭や同部屋で先場所三段目優勝の猿飛あたりが有力か。その猿飛は夢ノ天を左差しから寄り切り、幕下でも十分活躍を予感させる取り口を見せた。

今場所の新幕下は猿飛一人だけで、再幕下の徳皇、黒田と合わせても数は3人となった。下位の力士にとってもまずは残留に向けて勝ち越しが先決となるが、二日目以降一番一番が大事になってくる。(山里)

### 三段目〜序の口

三段目、上位では富士の海、自力岳、虹ヶ谷、松山が白星スタート。注目の新鋭秋田部屋の難波山は同期の英ノ森の変化に破れ、苦しいスタートとなった。ひとところ友砂親方が大いに期待を寄せている。



難波山●(叩き込み)○英ノ森



夢ノ天●(寄り切り)○猿飛



磯若○(寄り切り)●虎麒麟

た富岳だったがこのところ低迷。初日も虎吉田に力なく寄り切られた。

序二段では繁元、太鳳錦、片貝、鹿牛牛らが初日を飾った。付出し組では新鋭の秋田部屋と佐戸若部屋の新弟子が激突、佐戸若部屋の平戸波が勝利を飾った。

序の口は陥落組と新弟子入り乱れたサバイバル戦の様相。佐戸若部屋の仁嶽海は先場所序二段付け出しで惜しくも負け越し。その資質を惜しまれ序の口で再起を図る。初日は英部屋のエト龍を寄り切り期待に応えた。

初日は苦戦続きの秋田部屋だが、その中で琵琶桜は播磨部屋屋の爾波錦を押し倒し、一人気を吐いた。(鹿賀戸)

### 地方親方衆も観戦中

今場所から観客席にも新しい顔ぶれが見られた。

朝日松理事長が地方在住の親方を訪問したことを契機に親方が国技館に駆けつけたのだ。

親方衆の声を盛上げて本場所になるだろう。(友砂)



中段左から松ヶ神、鴨川、中央は秋田、その右隣に友砂、住之江、秋月の3S、右端に佐戸若(敬称略)



琵琶桜○(押し倒し)●爾波錦



仁嶽海○(寄り切り)●英ト龍



琴大堰●(叩き込み)○平戸波